

第9章 仮定法

第1節 仮定法過去・過去完了

I 仮定法過去

_____を意味する。

_____ , _____.

もしAが～ならば、Sは～なのになあ（でもそうじゃないから残念だ）

(= _____ , _____ .Aは～ではないので、Sは～です。)

注意 仮定法過去 → be動詞は、全て_____。

(例)_____.

もし私が鳥ならば、空を飛べるのになあ。(_____)

(= _____ , _____ . 私は鳥ではないので、空を飛ばません。)

(例)_____ , _____.

もし彼がここに来ることが出来れば、私は彼に会うのになあ。(でも来れないから会わなくて残念だ)

(= _____ , _____.)

II 仮定法過去完了

_____を意味する。

_____ . .
もしAが～だったら、Sは～だったのになあ（でもそうじゃなかったのが残念だ）

(= _____ .Aは～ではなかったのが、Sは～でした。)

(例) _____ , _____ .

もし私があの時、たくさんのお金を持っていたら、あの車を買ったのになあ。

(でもお金を持っていなかったのが買わなかったのが残念だ)

(= _____ , _____ .)

(例) _____ , _____ .

もし彼女が私と一緒にいてくれなかったら、私は家に帰ってこなかったかもしれない。

(でもいっしょにいてくれたから、家に帰ってきた)

(= _____ .)

III 仮定法過去・過去完了を使用する文型

_____ / _____	S + _____ .	Sが～ならばなあ。(_____)
(= _____ / _____ . Sが～でないのが残念だ。)		
_____ / _____	S + _____	Sが～だったらなあ。(_____)
(= _____ / _____ . Sが～でなかったのが残念だ。)		

(例)空を飛べればなあ _____ . (= _____ cannot fly in the sky.)

(例)私が彼女の友達だったらなあ _____ .

(= _____ .)

_____ _____ _____ _____	, S 助動詞過去 do.	もし～がなければ、Sは～なのになあ (現在の事実に反する仮定)
_____ _____ _____ _____	, S 助動詞過去 have + p.p.	もし～がなかったならば、Sは～だったのになあ (過去の事実に反する仮定)

(例)もし水がなければ、私たちは生きていけないでしょう。

_____ , we could not be alive.

(例)もし君のレインコートがなかったら、私は風邪を引いていただろう。

_____ , I would have caught a cold.

S + V _____)
S + V _____)

まるで～であるかのように

S + V _____)
S + V _____)

まるで～であったかのように

注意 _____ が、 _____ と _____ していれば _____ が
あったら _____ を使用する。

(例)彼女はまるで女王であるかのように私と話しをしている。

She is talking with me _____.

(例)彼女はまるで昨日日本に来たかのように私と話しをしている。

She is talking with me _____.

(例)彼はまるで何でも知っているかのように話をする。

He _____

(例)彼女はまるで幽霊にでもあったかのように見えた。

She _____

_____ (_____ / _____) _____.

もう～すべき時間です。

(例)もう寝る時間です。

_____.

(例)もう彼らがここに来てもいい頃です。

IV 仮定法過去・仮定法過去完了Mix型

仮定法過去 _____ に反する仮定

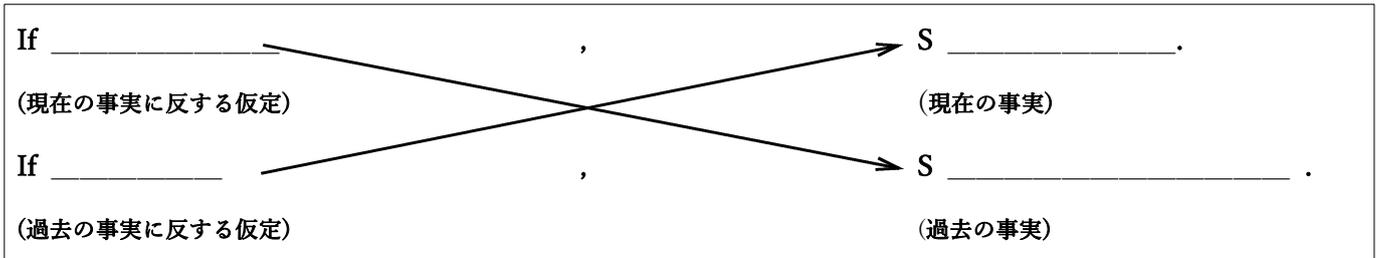
_____ , _____ .

もしAが～ならば、Sは～なのになあ（でも違うから残念だ）

仮定法過去完了 _____ に反する仮定

_____ , _____ .

もしAが～だったら、Sは～だったのになあ（でも違ったので残念だ）



(例)もし彼がお金持ちなら、 あのとときアメリカには行かなかっただろう。
 (現在の事実に対する仮定) (過去の事実に対する仮定)

_____ , _____

(例)もしあの時私が彼女に会わなかったら、私は今ここにはいないだろう。
 (過去の事実に対する仮定) (現在の事実に対する仮定)

_____ , _____ .

第2節 仮定法未来・仮定法現在

I 仮定法未来

_____を表現する。

_____, S _____ / _____ + _____.

もし万が一Aが～ならば、Sは～だろう。(=If _____, _____.)

(例)もし万が一、私が死んでしまったら、誰が子どもたちの面倒を見てくれるのだ？

_____ ?

(= _____ ?)

II 仮定法現在

現在では以下の形式のみ。

A 要求・提案・命令の動詞+that節

S (_____) that _____ (_____) _____.

(例)彼は会議を延期するように提案した。

He _____ the meeting _____.

(= He _____ the meeting _____.)

(例)彼女は私がリーダーになるよう提案した

She _____ I _____ the leader.

(= She _____ I _____ the leader.)

B It is _____ の形容詞 + that節

It is	(_____ (望ましい)	that	A (should) do.
	(_____ (大切な)		
	(_____ (_____)		
	(_____ (必要な)		
	(_____ (当然な)		
	(_____ (きわめて重要な)		
	(_____ (必要不可欠な)		

(例)彼がここにいることが必要不可欠だ。

It is _____ he _____ here.

(= It is _____ he _____ here.)

(例)彼女が私に謝罪するのが当然だ。

It is _____ she _____ me.

(= It is _____ she _____ me.)

第3節 if節以外を使用する仮定法

I if以外の語句が使用される場合

A + 仮定法過去 , S 助動詞過去 . (A + had p.p. , S 助動詞過去 + have p.p.)	_____

(例)もし私が鳥ならば空を飛べるのになあ

_____ , I could fly in the sky.

II ifの省略

_____ / _____ / _____ を _____ に置くことにより、 _____ を省略できる。

(例)もし私が鳥ならば空を飛べるのになあ

_____ , I could fly in the sky.

(4単語で)

III if節以外のものが条件節になっている場合

1. _____

(例) _____ .

彼女が私の友達だったらいいのになあ。

2. _____

(例) _____ .

その同じ男が今世紀に生きていればヒーローになるでしょう。

3. _____

(例) _____ , _____ .

10年前なら20個のリンゴを食べることができたのになあ。

_____ ~ _____ があれば

(例) _____ , you wouldn't have made such a mistake.

もう少しの注意があれば、あなたはそんなミスはしなかつたらう。

～ , _____ S + 助動詞過去 do. / S + 助動詞過去 have p.p.

～ _____、Sは～だろう。

(例)He worked hard , _____ in the exam.

彼は熱心に働いた。もしそうでなかったら、彼はその試験に失敗していただろう。

4. _____ の場合

(例)_____. 日本人ならお米を食べるだろう。

5. _____

(例)Anyone who _____ would be laughed at.

そんなことをする人はどんな人でも笑われるだろう。

6. 条件節 (if) の省略

「_____」 「_____」 などの条件節が省略されている場合。過去形の助動詞があったらこれ考えること。

(例) _____.

彼は（なろうと思えば）よい先生になれただろう。

注意 if節だけが残っている場合もある。この場合は_____を意味する。

(例) If I had told you everything !
